

## 第 48 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会

# 開催記録

### 1 開催概要

- 日時：令和6年10月2日（水）10：00～11：00
- 場所：JR 東日本現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・谷川 章雄氏（早稲田大学名誉教授）
委員	・老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー）
オブザーバー	・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・港区 街づくり支援部 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課 ・東京都 交通局 建設工事部 計画改良課 ・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 技術監理部 ・JR 東日本コンサルタンツ株式会社 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部 ・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部 ・京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 品川開発推進部
事務局	・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部
サポート	・パシフィックコンサルタンツ株式会社

■ 当日配布資料

部会②

- ・ 次第
- ・ 資料 1・2：京急線連立 JR 西口駅舎付近仮設化（仮受け）工事計画について

## 2 議事要旨

### 2.1 部会②

#### (1) 開会

- 第 48 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会②を開会する。(事務局)

#### (2) 京急線連立 JR 西口駅舎付近仮設化(仮受け) 工事計画について

- 資料 1 について説明する。(京急)

##### <説明概要>

- 第 33 回委員会にて、連立 2 工区全体の高架橋の仮受け計画を説明した。
  - 今回は、このうち品川駅東西自由通路北側の仮受杭の打設について、ご判断いただきたい。
  - 工事内容は仮高架橋番号 K-P58・K-P59・K-P60-1・K-P60-2 の杭打設である。
  - 杭打設計画箇所付近は、JR 品川駅西口駅舎の地下構造物およびインフラ設備が現存している。
  - TP-0.3 まで地下躯体が存在し、そのさらに下に基礎が存在する。なお当該箇所付近の地下水位は T.P.+0.9m 付近であり、地下 1 階の床面高さ T.P.+0.1m より高い。
  - 南北方向の隣接する箇所では、これまで何本ものボーリング調査を実施している。
  - このような現地状況であることから試掘等の調査が困難であり、杭打設箇所はすでに地下躯体が現存し、かつ周辺でボーリング調査を実施していることを踏まえて、工事可否をご判断いただきたい。
- 地下躯体があること、ボーリング調査の打設自体が困難ということである。周囲の調査の状況を港区から説明してもらい、それを踏まえて判断したい。(委員長)

- 資料 2 について説明する。(港区)

##### <説明概要>

- 工事予定箇所の北側と南側で、計 7 本のボーリング調査を行っている。
- 北側の No.17~20 の 4 本は概ね T.P.+1.0m まで攪乱されていて、その下にローム層主体の埋立土、暗灰色粘質土、貝が混じる黒褐色シルト層、その下に自然堆積層の硬質粘土層が分布する。
- 南側の No.9・9'・21 は概ね T.P.+2.0m まで埋立土が残っているが、基本的な堆積は北側と同様である。
- No.9 のみ陸側埋立時の石垣と考えられる支障物に当たっているが、それ以外の箇所からは構造物の一部と考えられる遺物は確認されていない。
- これらの状況から、今回の工事予定箇所で何らかの遺構が出てくる可能性は低く、

No.17～21 に近い結果になると推測している。

- この一帯は明治 20 年地形図に示される埋立の石垣ラインの東側の部分に当たり、この部分は石垣で囲われた埋立工事の次の埋立が行われた範囲に該当すると推定している。暗灰色粘質土は埋立前の海中の堆積物と考えて良く、その下の黒褐色シルトは高輪築堤跡の発掘調査でも確認しているが、この上に築堤を構築した層である。硬質粘土層はおそらく氷河期の堆積物と考えられ、軟質シルトは古い時代の自然の谷地形における堆積物と考えられる。地下躯体の底のレベルが T.P.-0.3m となるので、これよりも下に何らかの遺構があるかという判断になるが、これまでの周辺のボーリング調査結果等から何らかの遺構があるとは考えにくい。(委員長)
- 本来であれば仮設杭の前にボーリング調査を実施すべきだが、現実的に困難ということと港区の報告と見解より勘案し、杭の打設を可とする判断としたい。(委員長)
  - ← 異議なし。(委員一同)
  - 杭の打設を可とする。ただし、今後も原則的に杭の打設前にボーリング調査を実施する方針は継続する。(委員長)
- 仮受杭の施工について認めていただき感謝する。引き続き丁寧に進めていくので、ご指導をお願いしたい。(京急)

### (3) その他

### (4) 閉会

### 3 議事録

#### 3.1 部会②

##### (1) 開会

(委員長) 次第に沿って進める。

##### (2) 京急線連立 JR 西口駅舎付近仮設化(仮受け) 工事計画について

(京急) 資料 1 について説明する。第 33 回委員会にて、連立 2 工区全体の高架橋の仮受け計画を説明した。今回は、このうち赤枠で示す品川駅東西自由通路北側の仮受杭の打設について、ご判断いただきたい。工事内容は仮高架橋番号 K-P58・K-P59・K-P60-1・K-P60-2 の杭打設である。杭打設計画箇所付近は、JR 品川駅西口駅舎の地下構造物およびインフラ設備が現存している。TP-0.3 まで地下躯体が存在し、そのさらに下に基礎が存在する。なお当該箇所付近の地下水位は T.P.+0.9m 付近であり、地下 1 階の床面高さ T.P.+0.1m より高い。南北方向の隣接する箇所では、これまで何本ものボーリング調査を実施している。このような現地状況であることから試掘等の調査が困難であり、杭打設箇所はすでに地下躯体が現存し、かつ周辺でボーリング調査を実施していることを踏まえて、工事可否をご判断いただきたい。

(委員長) 質問、意見はあるか。

(委員長) 地下躯体があること、ボーリング調査の打設自体が難しいということである。周囲の状況を港区から説明してもらい、それを踏まえて判断したい。

(港区) 資料 2 について説明する。平面図上の灰色のハッチング部分が地下躯体となり、地下躯体にかかる青やオレンジで示す部分が京急の工事予定箇所である。工事予定箇所の北側と南側で、計 7 本のボーリング調査を行っている。この 7 本について、過去 3 回の委員会で資料を用いて報告しており、今回はその時の資料を再掲している。ただし、ボーリング柱状図の土層の彩色は、今回報告にあたり、各地点の層序の関係をわかりやすく示すために一部変更した。北側の No.17~20 の 4 本は概ね T.P.+1.0m まで攪乱されていて、その下にローム層主体の埋立土、暗灰色粘質土、貝が混じる黒褐色シルト層、その下に自然堆積層の硬質粘土層が分布する。南側の No.9・9'・21 は概ね T.P.+2.0m まで埋立土が残っているが、基本的な堆積は北側と同様である。No.9 のみ陸側埋立時の石垣と考えられる支障物に当たっているが、それ以外の箇所からは構造物の一部と考えられる遺物は確認されていない。

No.9の支障物が護岸の一部であれば、No.9よりも東側は埋立直前まで水域であった可能性があり、このことは堆積した泥土の直上に埋立土が見られることから推測できる。これらの状況から、今回の工事予定箇所では何らかの遺構が出てくる可能性は低く、No.17～21に近い結果になると推測している。

(委員長) 質問、意見はあるか。

(委員長) 今回の工事予定箇所はNo.19～21の間である。ボーリング調査が困難ということで、周辺のボーリング調査結果を参考に判断したい。この一帯は明治20年地形図に示される埋立の石垣ラインの東側の部分に当たり、この部分は石垣で囲われた埋立工事の次の埋立が行われた範囲に該当すると推定している。暗灰色粘質土は埋立前の海中の堆積物、泥と考えて良く、その下の黒褐色シルトは高輪築堤跡の発掘調査でも確認しているが、この上に築堤を構築した層である。その下の硬質粘土層はおそらくそれよりも古い氷河期の堆積物と考えられ、一部検出された軟質シルトは古い時代の自然の谷地形における堆積物と考えられる。地下躯体の底のレベルがT.P.-0.3mとなるので、これよりも下に何らかの遺構があるかという判断になるが、これまでの周辺のボーリング調査結果等から埋立前の泥の層があり、その下には江戸時代の海の堆積層、自然堆積層と続き、何らかの遺構があるとは考えにくい。本来であれば仮設杭の前にボーリング調査を実施すべきだが、現実的に困難ということと港区の報告と見解より勘案し、杭の打設を可とする判断としたい。

(委員一同) 異議なし。

(委員長) 杭の打設を可とする。ただし、今後も原則的に杭の打設前にボーリング調査を実施する方針は継続する。

(京急) 仮受杭の施工について認めていただき感謝する。引き続き丁寧に進めていくので、ご指導をお願いしたい。

(委員長) 他に何かなければ、次に進める。

### (3) その他

(委員長) その他は何かあるか。

### (4) 閉会

(委員長) 特になければ部会②を閉会する。

以上